

H14_ その他調査（PFI、利用実態分析、立体公園）

調査項目	その他調査（PFI・利用実態分析、立体公園）
調査年次	平成14年度（3次調査） 章番号〔 〕
目的	<p>PFI：都市公園における整備・管理・運営におけるPFIの活用について事例等を検討し、都市公園での導入の企画・検討を行う際に必要な基礎情報を収集整理する。</p> <p>利用実態分析：平成12、13年度実施の利用実態調査について、街区公園、近隣公園からなる身近な公園の計画や設計につながる課題事項を整理・分析する。</p> <p>立体公園：立体公園を制度化するための基礎調査として、これまでの類似事例の収集と整理、課題の抽出、課題解決の方向等について検討する。</p>
概要	PFI、利用実態分析、立体公園についての調査をそれぞれ行い、基礎資料、及び課題整理を行った。
結果	<p>公園緑地の整備と管理運営におけるPFIの導入に関する基礎情報整理</p> <p>『PFI適合性評価「 」の公園』 「施設メンテナンス型の公園」、「運営工夫型の公園」、「事業複合型」/ 『PFI適合性評価「 」の公園』 「街区公園等身近な公園（複合公園と一体的に運営、管理する場合検討の余地あり）」</p> <p>PFI事業の考え方は、「事業類型」は、サービス購入型が一般的、独立採算型やジョイントベンチャー型の検討はできる。「事業方式」は、DBO、BTO、BOT、BOOいずれも考えられる。</p> <p>『計画段階におけるリスク』 「計画責任リスク、用地取得リスク、関連インフラ整備リスク、住民説明リスク」は公共負担、「設計、技術リスク」は事業者負担。</p> <p>『建設期間におけるリスク』 「コストオーバーラン、タイムオーバーラン、性能が達成できないリスク」は、基本的には事業者が負担。</p> <p>『運営機関におけるリスク』 「運営リスク、マーケットリスク、経営不審・債務不履行」は基本的には事業者負担だが、 は公共も一部負担が望ましい。</p> <p>『事業期間全般におけるリスク』 「不可抗力リスク」、「法制度変更リスク」は公共が原則負担。</p> <p>都市公園利用実態調査の総合分析その2</p> <p>概ね年間を通じよく利用していることがわかったが、今後は「利用しない人」「利用されていない公園」への対応が必要である。利用内容の「健康運動」「犬の散歩」「親子での遊び」の利用の動機に「交流」が考えられ、公園は交流の場の役割を担っていると言えるが、明確な目的をもたない人でも気軽に来て交流を楽しめる良質の空間にして行くことが必要。ターゲットは、「女性」「高齢者」「学校」等で、これらへの対応が必要。</p> <p>立体公園制度検討に資する資料収集整理</p> <p>立体公園の条件 「公園の継続が担保されている」「植栽等公園としての施設整備が可能」「上部はオープンスペースとして他の土地利用がない」「一般の人々が自由に利用可能」「道路・公共用通路から直接アクセス可能であること（建物内通過は不可）」</p> <p>今後の課題 「技術的基準の検討」「計画決定の範囲・都市公園制限の考え方の整理」「都市公園としての維持管理や運営における調整」「土地所有の対する動機付け」</p>
課題	
調査結果の反映等	平成15年度調査（ ）身近な公園の体系のあり方を探る基礎資料作成。立体公園制度化。

調査項目 その他調査（PFI・利用実態分析、立体公園）

調査年次 平成14年度（3次調査） 章番号〔 〕

キーワード

利用実態、意向調査、整備手法、管理運営、PFI、立体公園

事例公園等

千葉県 千城台東第2公園、千城台南公園、千城台公園
東京都 〔北区〕十条仲原4丁目児童遊園、稲付公園、清水坂公園 〔世田谷区〕希望丘東公園、葎根公園、希望丘公園
名古屋市 観音公園、四条公園、道徳公園、栄公園
大阪市 大淀中5公園、大淀南公園、上福島北公園、浦江公園、京橋公園
神戸市 御崎公園スタジアム
福岡市 小田部1号幼児公園、室町南公園、小田部西公園、小田部中央公園、アクロス福岡、スカイガーデン
東京都 芝公園（芝プリンスホテル）、晴海アイランド・トリトンスクエア
ベールフォーレ松山
北海道 道立八雲広域公園
神奈川県 神奈川県立湘南海岸公園
横須賀市 （仮称）長井海の手公園整備事業
鹿児島市 観音崎公園
大阪府 府営浜寺公園
群馬県太田市 北部運動公園
千葉県 多機能型農業公園